



高校

「Regeneron ISEF(国際学生科学技術フェア)2023」に日本代表として出場 材料科学部門「優秀賞4等」受賞の快挙達成!

Grand Award
授賞式の様子▶



5月14日～19日、アメリカ(テキサス州)のKay Bailey Hutchison Convention Center Dallasにて、「Regeneron ISEF(国際学生科学技術フェア)2023」が開催され、日本代表として参加した本校の箕浦祐璃さん(3梅)・光吉音葉さん(3梅)が、材料科学部門において「優秀賞4等」を受賞しました。

本大会は、高校生の自由研究の国際大会で、2023年は64の国と地域から1,638名のファイナリストが参加をしています。このファイナリスト達は、各国や地域で非常に優秀な研究をしたと認められた学生達になります。

本校の生徒2名は、昨年12月に日本で最終審査会が行われた「JSEC2022」において、「協賛社賞(ソニー賞)」を受賞し、全国の研究の上位8テーマに選ばれたことにより、ISEFへの出場権を得ることができました。

生徒2名の研究タイトルは、「Analyzing a 400-year-old mystery: producing green makeup from ink and Beni」です。

本研究は、江戸時代において流行した、玉虫色に輝く高級な「小町紅」を下唇に重ね塗りし、緑色(笹色)にする化粧法の解析です。この化粧法を行うときに煤を用いると、少ない量の小町紅でも緑が生じる、また、小町紅を用いなくても緑が生じる、ということが、江戸時代

の化粧本である「都風俗化粧伝」に記述されています。それを実証した研究はこれまでになく、本研究では、その実証と原理の解明がなされました。

ISEFでの審査基準は、「研究の課題設定」「計画と手法」「実施」「創造性」「プレゼンテーション(ポスター／インタビュー)」で構成され、協賛企業・団体によって選ばれる「特別賞」とISEFの公式ジャッジによって選ばれる「優秀賞(Grand Award)の1～4等」が決まります。

今回、箕浦さんと光吉さんは、優秀賞の21研究部門のうち、材料科学部門において「優秀賞4等」を受賞し、世界で優れた研究をしたと認められました。日本代表として参加した11テーマ中、優秀賞に選ばれたのは3テーマのみで、本校の生徒の活躍は、日本という国的学生研究活動における大きな成果になりました。

この結果を受け、本校生徒2名は文部科学大臣表彰を受賞いたしました。



5日目に実施された研究発表の一般公開



熱気に包まれる授賞式会場(「Society for Science」公式YouTubeチャンネルより)



感動の授賞式シーン(「Society for Science」公式YouTubeチャンネルより)

受賞後の光吉さん(左)と箕浦さん(右)

高校

高校バレー部
×
カリフォルニアのクラブチーム

交流試合を開催

4月11日、高校バレー部は、カリフォルニアのクラブチーム「coast」と交流試合を行いました。「coast」は全米の選手権で常にトップ10に入っている強豪チームです。今回は、全米選手権準優勝のU18チームがU17チームと一緒に来日しました。試合は「coast」U18と文京学院Aチーム、「coast」U17と文京学院Bチームが対戦しました。

文京学院Aチームは高校生のレギュラーメンバーです。圧倒的な高さとパワーを誇るU18の選手たちに、本校の選手たちは粘り強いディフェンスからスピードあるコンビバレーで対抗しました。激しいラリーの応酬でどのセットも大接戦となりましたが、セットカウント3-1で文京学院が勝利しました。高校生のサブメンバーで編成した文京学院BチームはU17の高いブロックに攻撃が全く機能せず、第1セットは圧倒されてしまいます。メンバーのポジションを変更しながら、第2セット以降は接戦に持ち込みましたが、セットカウント1-3でU17が勝利しました。

試合後は、文京学院オリジナルタオルと「coast」チームのTシャツを交換し、お互いの健闘を称えました。また、日本ならではの駄菓子や和菓子のプレゼントはとても喜んでもらえました。「coast」の選手たちに積極的に話しかける本校の選手たちのコミュニケーション能力の高さにも驚きました。スポーツは国境を越えるといったところでしょうか。お互いのチームにとって貴重な体験となった1日でした。



試合後の集合写真



交流試合前に練習を行う生徒たち

生徒コメント

猪瀬里花子(3杉)

海外の選手と一緒にバレーをすると、とても素晴らしい経験をさせてもらいました。「coast」の選手が体育館に入ってきた時、私たちとの体格差に圧倒されました。合同練習では、言葉が通じない中、ジェスチャーをしたり、簡単な英語を話してみたりしながら、コミュニケーションを取ることができました。ゲーム中には、技術的なことやバレーに取り組む姿勢で海外選手と私たちとの違いを探しました。この試合を通して、私たちもより大きい相手との戦い方を学ぶことができ、とても良い交流となりました。

GREEN SPIRITS

副学長を拝命して

副学長・
保健医療技術学部教授
川良徳弘



4月に副学長を拝命しました。大学の環境は変化の時代を迎えており、社会ではChatGPTの登場がもたらす変革が取りざたされ、教育における生成AIの影響が注視されています。膨大なデータに簡単にアクセス可能となって、知識を持っていることにとどまらず、それを活かしていくことに重点が移ってきました。知識を統合し、社会

の課題を解決していくための教養を身につけることは、本来、高等教育の目的といえます。今後、この能力開発が教育現場で加速していくことが予想されます。

小学校、中学校、高等学校では総合的な学習(探求)の時間が展開されています。「変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」ことを文部科学省は謳っています。また、生徒たちの認知特性に合わせた「個別最適な学び」と「協働的な学び」はICTの活用とリンクして、従来の対面型授業に代わる方法として推進されています。このような学習法が浸透てきており、今、大学に入学する学生たちの学び方は、過去の学生たちの学び方とは確実に変わってきています。

大学は、この学び方の変化の流れの中にあります。私立大学等改革総合支援事業の中で、さまざまな観点での対応が挙げられています。入学者選抜、カリキュラム、学修成果評価、教職員組織、大学のIR機能などについて、32個の項目があります。年々、これらの目標レベルは高くなっています。本学が時代の変化に対応し、教育力を維持・向上させていく中で、客観的指標として考慮してきましたし、今後も注力していく必要があります。

最後に、1年前から居住地の町内会の仕事に関わっています。本務と離れて職種や世代の異なるメンバーと活動するのは新鮮です。私はまだ若い部類に入ります。大学で引き続き、生き生きと仕事ができるように取り組んで参ります。

中 学 中3「修学旅行」実施

コロナ禍での制約が少しずつ緩む中、中学校では修学旅行が実施されました。

4月19日～22日の4日間、中学3年生は、関西方面で日本の伝統文化に触れてきました。初日は、京都駅からバスで奈良県に入り、法隆寺と薬師寺を見学しました。特に、薬師寺の僧侶によるユニークな説法は、生徒の心を驚かせました。2日目の午前中は、「奈良筆作り」と「窯元での絵付け」に分かれて体験し、午後は、奈良から京都まで班別研修を行なながら、班ごとに京都のホテルに戻りました。3日目は、京都市内を事前に調べたコースを巡り、京都の伝統的な寺社を見学しました。インパウンドの復活を肌で感じた1日でした。最終日は、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）で楽しい時間を過ごしました。生徒は、さまざまなキャラクターのカチューシャを付け、次のアトラクションに向けて走り回っていました。4日間、天気にも恵まれ、全員元気に過ごすことができました。最高学年としての自覚と責任感をさらに高める修学旅行になりました。

PHOTO GALLERY 修学旅行 フォトギャラリー



中 学 中2「校外学習」実施

4月20日、中学2年生は、「新クラスでの友との親睦を深める」を目標に、校外学習として、八景島シーパラダイスを訪問しました。当日は、夏を思わせる晴天に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。生徒は班ごとに分かれ、ジェットコースターなどのアトラクションを楽しみ、水族館では様々な海洋生物の生態を学び、友人との親睦を深めました。本校以外にも複数の学校が訪れていて、ほどよい混み合でした。一年前は、コロナ禍でレストランが閉鎖され、昼食はお弁当というでしたが、レストランも通常営業となり、バーべキュー会場も団体客で賑わっていました。天候にも恵まれ、充実した3日間を過ごすことができました。

生徒コメント

池田彩音（2桃）

私たちは、八景島シーパラダイスに行きました。学活の時間に、どのような場所か、どんな乗り物があるのかなどを調べました。昨年の校外学習は、学校の体操着を着て、しかも雨天でしたが、今年は私服で行けることを楽しみにしていました。当日の天気は快晴で、新しいクラスの友だちと親睦を深めることができ、良い思い出になりました。



校外学習に向かう生徒たち



八景島シーパラダイスにて

中 学 中1「宿泊訓練」実施

4月20日～22日の3日間、中学1年生は、宿泊訓練を行いました。場所は山梨県の富士研修所で、宿舎のすぐ目の前に富士山が見え、素晴らしい眺望でした。オリエンテーションでは、校歌やペン習字の練習をはじめとして、集団生活や学校生活でのルールやマナーを学びました。運動施設では、体育祭で行う競技の練習や大縄跳び、ドッジボールなどを大変盛り上げました。また、富士山ドームの見学や、アース自然教室のスタッフによるチームビルディングなど、さまざまなプログラムを通して、友だちづくり、クラスづくりを行いました。食事の時間やお風呂の時間も楽しかったようです。天候にも恵まれ、充実した3日間を過ごすことができました。

生徒コメント

鈴木優那（1桃）

今回の宿泊訓練では、さまざまなオリエンテーションを経験しました。ペン習字では、正しい書き方やルールを教えてもらいました。ロープワークでは、簡単にできてほどけにくい結び方などを楽しく練習しました。ここで覚え、学んだことをこれから的生活に生かしていきたいと思います。



参拝に訪れた北口本宮富士浅間神社



ペン習字に取り組む生徒たち

生徒コメント

「春、いざ古都の旅へ」 中学3年生修学旅行委員 倉本和香（3菊）・横山葵衣（3菊）・宮嶋里歩（3栗）・鈴木美礼（3栗）

2023年4月19日朝8時、私たちは、ずっと心待ちにしていた修学旅行へ出発した。

1日目は、奈良の法隆寺と薬師寺を行った。バスガイドの方や、お寺のお坊さんが、関西弁で話している、それだけで関西に来た実感が湧いてきて、とてもわくわくした。「下を向いていると面が前に倒れるから何事にも「面倒」になってしまう。下を向くのも、前を向くのも自分。自分の人生を楽しむのは自分自身。」と、力強く、そして優しく語るお坊さんのお話は心にしみ、薬師寺の歴史と併せて学ぶことができた。

2日目、奈良公園に行なった。私たちは、たくさんの鹿に囲まれるという、今まで経験をしたことがない経験をした。鹿せんべいを持っていたり、いろいろなところから鹿が寄ってきた。悲鳴を上げて逃げ惑う友だちもいたけれど、とても楽しかった。奈良から自分で京都駅まで帰れるのが心配だった。しかし、みんなで地図を手に頑張った。誰もがくれることなく、京都駅に帰ることが出来た。着いた時は、心底ほっとした。

3日目は、自分たちだけでいろいろな場所へ行った。自分たちで時間も決めて行動しなくてはいけなかったので、みんなで考えて行動することを学んだ。みんなの行きたい場所に行くことは大変だったけれど、譲り合って、叶えられた。その日の夜、夕食の途中で、一緒にいる時間が残り少ないということに気づいてしまい、とても悲しくなった。

最終日、とても楽しみにしていました。USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）で楽しい時間を過ごしました。生徒は、さまざまなキャラクターのカチューシャを付け、次のアトラクションに向けて走り回っていました。4日間、天気にも恵まれ、全員元気に過ごすことができました。最高学年としての自覚と責任感をさらに高める修学旅行になりました。

次は、体育祭。私たちは前に進む。

藤沢市等との連携による探究活動プログラム「AOBA×BUNKYO 藍indigo project」を実施

3月から5月にかけて、本校とAOBA×BUNKYO 藍indigo projectが実施されました。本プロジェクトは、藤沢市在住の守谷玲太氏（株式会社アートモリヤ）、藤沢市役所、藍の生産者など関係者ご協力のもと、「相模湾の海洋ごみ問題」をテーマに、藍を通して環境問題を学び、相模湾を取り巻く海洋ごみに関する知見を深め、アートで表現することを目的として行われたサステナブルな探究活動プログラムです。本校からは13名、AOBAからは12名の参加者が集まり、両校の生徒たちの混合チームで、6つのグループに分かれてアート制作に取り組みました。

参加生徒の感想等は各QRコードより文京学院大学女子中学高等学校ホームページにてご覧いただけます

Prior Learning



3月3日、本校にて守谷氏を講師に迎え、1回目の事前学習が行われました。両校の生徒たちは、藍と相模湾の海洋問題について、それぞれ調べ学習をまとめた内容に関するプレゼンテーションを行いました。そして、守谷氏からは藍の歴史と染料化に至るプロセス、藍染めやその他アートへのサステナブルな応用などについて講義と、「藍を通して環境問題を学び、アートで表現する」という本プロジェクトのミッションが提示されました。午後の藍染め体験では、生徒たちが自ら持参したものを使しながら染めていき、藍染めの特性を学ぶとともに、藍の種まきも同時に実施され、栽培の基礎を体験することができました。



守谷氏指導による藍染め体験



藍の育苗に向けた種まきを行う生徒たち

Fieldwork



3月6日、藤沢市のフィールドワークが行われました。守谷氏が藤沢市と推進する、「藍×障がい者雇用×サステナビリティ」の取り組み「FUJISAWA BLUEHANDS PROJECT」について学び、ブルーハンズマスター（障がい者藍染師）との藍染め作業を体験しました。また、「リサイクルプラザ藤沢」を訪問し、藤沢市のごみ問題の原因や現状についてお話を伺いながら見学させていただきました。午後は、江の島に移動し、片瀬海岸（東浜）でのビーチクリーン活動を体験。浜辺に落ちているプラスチック片や貝殻のほか、生徒たちが実際に拾った海洋ごみなどを使って、どのようなテーマおよびメッセージをアート作品に込めていくか、グループごとに話し合いを行いました。



ブルーハンズマスターと藍で染めたTシャツ



片瀬東浜でのビーチクリーンを体験する生徒たち

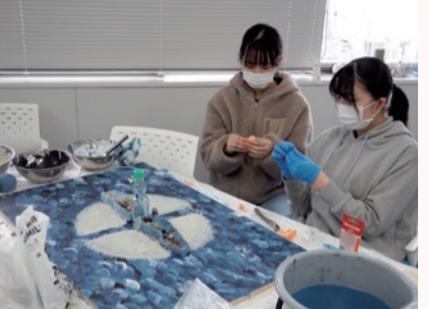
Creation of Artwork



フィールドワークから戻った生徒たちは、藤沢市環境総務課と守谷氏による「藤沢市の海洋ごみ問題」に関するオンライン講義でさらに学びを深め、各グループで作品のコンセプトやデザインイメージを固めていました。そして、守谷氏とのオンライン相談会を通して、デザイン画の発表、必要材料の検討などを進め、来る3月27日、いよいよ藤沢市役所でのアート制作に臨みました。各グループとも、「藍」をベースに、速乾性の左官材や紙など多様な材料を融合しながらカタチを創っていき、海洋プラスチックやフレーク、レジンといったマテリアルでデザイン加工を施していました。魚の体内がごみに汚染されていく様子を表現した作品や海洋ごみをデザインを使ったレジンアクセサリーなど、出来上がったアート作品はどれも完成度が高く、それぞれの作品のコンセプトやメッセージなどを生徒たちが発表しました。



アート制作を行う生徒たち①



アート制作を行う生徒たち②

Exhibition at Art Festival



今回のプロジェクトの学習成果発表の場として、「江の島国際芸術祭2023」への出展も実施されました。同イベントは、湘南藤沢活性化コンソーシアム主催の藤沢市で開催2周年を迎える江の島全体を巻き込んだアートフェスティバルです。藤沢市と江ノ島電鉄株式会社にも協力をいただき、5月15日～31日の期間、江の島サムエル・コッキング苑の「UMIYAMA GALLERY」をお借りし、「江の島の藍と海洋ごみの高校生アート展」と題した作品展示に向けて、準備を進めていくことになりました。そして、本プロジェクトの学習成果の集大成として、生徒たちは、グループごとにそれぞれの作品に込めた想いやメッセージを映像にまとめ、タイトルや概要説明と一緒にアート作品と映像の展示が実現しました。



藤沢駅の地下通路広場で行われたワークショップ



紙ねんどの作り方をレクチャーする生徒たち

さらに、5月14日、藤沢駅北口地下通路広場にて、「江の島国際芸術祭2023」出展プレイベントとして、生徒たちが制作したアート作品の展示と「藍の紙ねんど無料体験ワークショップ」も実施され、生徒たちは指導者として大活躍しました。母の日にあたるこの日、空き瓶を使い、藍を混ぜた100%紙素材の紙ねんどと海洋プラスチックなどの素材で装飾してつくる一輪挿しアートの制作体験は、雨の中多くの地元市民や観光客の皆さんにご参加いただき、休む間もないほどの大盛況でした。

当日参加した生徒たちは、自分たちのアート作品に込めたメッセージを伝えたり、ワークショップを運営したりと、貴重な機会となりました。

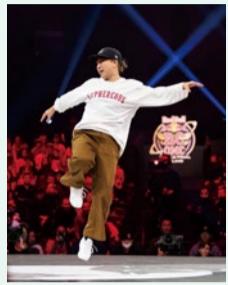


ワークショップで作った一輪挿しを囲む集合写真



UMIYAMA GALLERYに展示された作品

大学 “ブレイキン”で
パリ五輪を目指す河合来夢さん応援企画第2弾
「河合来夢 活躍祈願!! ~理学療法で徹底コンディショニング~」
全編動画公開中



ブレイキンで活躍する河合さん



レポート「河合来夢 活躍祈願!! ~理学療法で徹底コンディショニング~」

パリ2024五輪競技大会に新競技として追加された”ブレイキン”で選手として活躍する、河合来夢さん（人間学部4年）の応援企画第2弾として、「河合来夢 活躍祈願!! ~理学療法で徹底コンディショニング~」をテーマにした動画が本学の公式YouTube/TikTokチャンネルに公開されました。

昨年8月に実施しました応援企画第1弾「ブレイキン&大学の魅力を追求 スペシャルトークセッション」に続き、第2弾となる今回は、本学のレジェンド理学療法士3名【福井勉教授・教授、柿崎藤泰教授、上田泰久准教授】が登場し、河合さんが抱える体幹のズレや首の痛みなどの悩みに対して、各先生がオリジナリティ溢れるプロの技術でコンディショニングを施し、改善の傾向が目で見えるような動画内容となっています。パリ五輪出場を目指す河合さんの変化だけでなく、理学療法の魅力や凄さも感じられる動画になりますので、ぜひご視聴ください。

1足・下半身のスペシャリスト
福井勉教授（学長）による
コンディショニング**2**体幹のスペシャリスト
柿崎藤泰教授による
コンディショニング**3**首のスペシャリスト
上田泰久准教授による
コンディショニング

「河合来夢 活躍祈願!!
～理学療法で徹底コンディショニング～」
文京学院大学 公式YouTube/TikTokチャンネル

**大学**

「CHANGE MAKERS FES 2023」初開催 本学が協力団体として参加

3月28日、SDGs達成に向けた社会貢献活動に取り組む25歳以下の若きエンジニアたちが集うライブイベント「CHANGE MAKERS FES 2023」が東京ドームシティホールで開催され、本学が協力団体として名を連ねました。本イベントは、こども基本法施行に向けた「子どもの声を聴く社会づくり」のスタートを記念するイベントで、カナダのFree The Childrenが始めたイベント「WE DAY」をモデルに、その日本版として、今年初めて開催されました。

本学では毎年、女性や児童に対する暴力撤廃を呼びかける活動「オレンジデーキャンペーン」に参加している他、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）」の知識を広く知らうことを目的としたセミナー参加の機会を学生に提供するなど、SDGs達成に向けた取り組みを積極的に実施しています。このような背景から、本学は今回のイベント主旨に賛同し、協力団体となりました。

イベント当日は、外国語学部の甲斐田万智子教授のゼミ生が中心となり、ゼミ生が制作に協力した『「世界の子ども権利かるた」—みんなで知ろう！わたしたちのチャイルドライツ』を使って実施したワークショップの様子についてもポスター展示を行いました。参加した学生からのコメントを右に掲載します。

高校 高1「スプリングキャンプ」実施

4月20日～21日の2日間、高校1年生は、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、スプリングキャンプを実施しました。目標は、「高校生としての自己管理力を身につけ、学年・クラスの人間関係を深めること」です。

当日、スプリングキャンプを始めるに当たって、最初に、チームビルディングに役立つゲームに取り組むことで「協働すること」について考えました。その後は、体育祭のクラスTシャツ・応援旗のアイディア出し、最終日には大縄跳びやドッジボールなど、学年・クラスが今以上に仲良くなれるような活動に取り組みました。

iPadを使っての英単語テストや、本校の学習に関するルールの確認など、スプリングキャンプは楽しいことばかりのイベントではありません。入浴や食事も他の利用者と一緒に時間を守って済ませなくてはならず、不便なこともたくさんありました。が、生徒たちは高校生になって初めての宿泊研修を大いに楽しんだようです。このスプリングキャンプが、生徒たちがお互いにより強い絆を築き、充実した学校生活を送るきっかけとなることを願っています。



チームビルディングのゲームに取り組む生徒たち

生徒コメント

寺内馨子（1歳）

私たちは入学して初めての行事、スプリングキャンプに行きました。参加するまでは、1泊2日を一緒に過ごすクラスメイトと仲良くできるか不安でした。しかし、体育祭の応援旗やクラスTシャツの制作、先生方が用意してくれたレクリエーションなどを通して、新たな友だちの良さを見つけ、協力して取り組むことができました。これからの学校生活では、行事で学んだことを活かし、クラスや学年との仲間を大切にしていきたいと思います。

糸川美月（1楓）

私たち高校1年生は入学から2週間という短さで、スプリングキャンプに行きました。参加するまでは、中高一貫生以外には、まだクラス内でも話したことのない子が多くいて、うまくやっていけるか不安でした。しかし、実際にに行ってみたら、多くの活動を通してクラスのみんなと仲良くなることができました。今回の行事を通して、クラスだけではなく、学年としての団結力が高まったと思います。6月の体育祭でも、学年で団結して優勝したいです。



BOOK INTRODUCTION
書籍紹介

『きみがきみらしく生きるために 子どもの権利』

外国語学部の甲斐田万智子教授監修の本書は、「子どもの権利条約」の条文の内容をイラスト入りでわかりやすく解説すると同時に、困ったときの相談窓口情報や、SDGsとの関係、子どもの権利のための様々な取り組みやデータなどを紹介した、小学生から学んで使える「子どもの権利」の入門書です。全ページカラーでイラストもたくさん入っており、

総ルビのため、小学校中高学年からひとりで読むこともできます。今年4月1日から施行された「子ども基本法」についても説明されています。子どもはもちろん、子どもに関わる全ての大人にも読んでほしい1冊です。

監修：甲斐田万智子（外国語学部教授）・絵：林ユミ／KADOKAWA(2023年3月)／1,650円(税込)

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん

第89回

画：美術部（高校）K

